

地方公共団体における人権教育事業の実施状況に関する調査研究
事例調査票

様式2

(財)人権教育啓発推進センター

実施自治体・担当課（連絡先）	川崎市教育委員会 高津市民館 社会教育振興係
	電話：

1. 概要

事業名	高津市民館市民自主企画事業「多文化フェスタみぞのくち」
主催（共催）	第7回「多文化フェスタみぞのくち」実行委員会/川崎市教育委員会高津市民館
実施年月日・実績等 *回数・参加人数・作成部数等	2006/10/23 10:30～15:00 参加者 1,908人
開催場所	ノクティ2屋上広場（マルイファミリー溝口・高津市民館屋上）
対象	一般市民
人権課題	外国人市民、障がい者、高齢者、子ども等

2. 事業内容

(1)事業の目的

地域には大切な個性を持つ多くの人々が生活している。その違いを認め合い、互いの理解と友情では育まれた「多文化共生」のまちづくり、「環境にやさしい」まちづくりを目指す。

(2)事業概要

地域に暮らす障がいのある人や外国人、子どもや高齢者等、様々な立場の人たちとそれを支援する人たちが集まって「お互いの理解と友情で育まれた『多文化・共生』のまちづくり」をめざす祭り。市民活動団体の出店を募り、屋外ステージ発表、世界の料理屋台、地域作業所の製品販売などを実施。
参加団体の総体としての実行委員会と高津市民館の協働事業として企画運営。

(2)-1 連携状況

後援：川崎市国際交流協会/かわさき市民活動センター/高津区地域教育会議/中原区社会福祉協議会/高津区社会福祉協議会/宮前区社会福祉協議会/多摩区社会福祉協議会/かわさきFM(79.1MHz)

(2)-2 特色・工夫した点（広報の方法も含む）

実行委員会でHPを立ち上げ、情報掲載のほか問合せなどにも答えられるよう整えたが、あまり利用はなかった。デパートの屋上を利用するので、デパートのエレベーター内にポスターを貼る等、一般の方々の目に触れやすいようにし、又外国人市民も対象とするので、チラシにはルビをふるなどの配慮を行った。

(3)参加者の反応・事業の反響等

天候にも恵まれ、2,000人近くの参加者を獲得できた（年々、わずかながらも増加傾向。口コミで伝わってきていると考えられる。）川崎市高津区の自主企画事業であるが、近隣の区からも広く人々が関わってきている（アンケートをとっていないため、参加者側からの意見は不明）。

(3)-1 反省点・今後の課題

- ・「環境」を考え、ゴミの分別等を呼びかけたにも関わらず、徹底していなかった。（特に割箸がリサイクルの方に入ってなく、ゴミ袋の中から取り出すこともしばしば。）
- ・ステージ部門で、出演者の中に時間を守らなかった人がいた。料理屋台の説明会のように、事前打ち合わせが必要。又、出番が終了すると帰ってしまう人もいる。『皆でつくる』を強調し、例えば実行委員会の段階からの協力を促していかなばならない。
- ・料理屋台についての保健所との調整。各国のメニューは魅力的ではあるが、素人の出店のため、保健所の規定からはずれてしまう（あるいは判別しがたい）ものも多く、早い段階からの確認が大事。
- ・傷害保険の加入。（16年度初めて入った。幸い該当者はなし。）
- ・ボランティアの確保。